

⑤Int.Cl.
H 01 h

⑥日本分類
59 C 21

日 本 国 特 許 庁

⑩実用新案出願公告

昭46-11499

⑩実用新案公報

④公告 昭和46年(1971)4月21日

(全2頁)

1

⑤電磁継電器

②実 願 昭43-35777
②出 願 昭43(1968)4月30日
⑦考 案 者 毛利和元
門真市大字門真1048松下電工
株式会社内
⑦出 願 人 松下電工株式会社
門真市大字門真1048
代 理 人 弁理士 竹元敏丸

図面の簡単な説明

図は本考案電磁継電器の実施例を示す。第1図は蓋を除去した平面図、第2図は断面図、第3図は部品の斜視図、第4図イ、ロは夫々接点部の動作説明図である。

考案の詳細な説明

本考案は4端子2回路の開閉接触部をもち、可動鉄片を吸引、釈放することにより該開閉接触部を切換閉鎖するヒンジ型電磁継電器に関するもので、開閉接触部の両側接点に加わる接触圧を均等にすることにより、接触を安定させようとするものである。

以下実施例図を参照して本考案電磁継電器を説明する。1は絶縁台、2はカバー、3はヒンジ型電磁継電器で可動鉄片4の遊端中央部に突起5を形成してある。6は反転バネで中央部7を折曲し一端8を左右両側に舌片9、10を形成して表裏面に突出する接点11、12を固着してある。また他端13には取付孔14、14が穿設され可動鉄片4に穿設した貫通孔15、15にリベット16、16でもつて反転バネ6が可動鉄片4上に圧接して固着される様になつてゐる。而して反転バネ6の舌片9、10の中央部は可動鉄片4の突起5に一定の圧力でおしつけられている。尚17、18は上部回路の夫々端子板で19、20はその接点、21、22は下部回路の夫々端子板で、23、24はその接点、25は可動鉄片4の復帰ス

2

プリング、26は継鉄である。

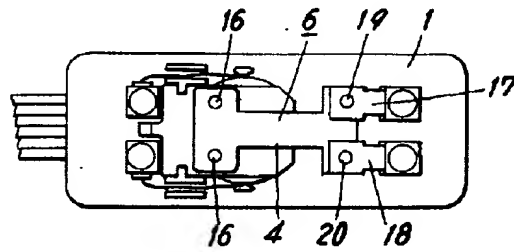
本考案は上記の如く、ヒンジ型電磁継電器3の可動鉄片4の遊端に突起5を形成し、該突起5が接点11、12を固着した反転バネ6の舌片9、10の中央部7を圧接支承する様反転バネ6を可動鉄片4上に固着した4端子2回路の開閉接触部をもつ電磁継電器としたので、突起5が反転バネ6の舌片9、10の支点となり圧接されていることよりあたかも突起5の部分で該支点を把持した如く、左右の接点11、20と接点12、19または接点11、23と接点12、24の夫々接触圧が均等となる。また前記反転バネ6が突起5に圧接していることより、例えば第4図イ、ロの如く一方の接点13あるいは23が位置ずれを起し舌片10がその分だけ撓みを生じ鎖線10'の状態如くなつたとしても舌片10の撓みが他側舌片9に固着した接点11側の接触に影響を及ぼさない。さらに可動鉄片4の反転ストロークが大きく与えられた場合であつても支点部は圧接されているにすぎないので、反転バネ6の一端8より他端13までの自由長を充分にとることができ、過大なストロークであつても充分に吸収することができ反転バネ6に無理を生ずることがない。

上記するように本考案電磁継電器にあつては、ヒンジ型電磁継電器3の可動鉄片4の遊端に突起5を形成し、該突起5が接点11、12を固着した反転バネ6の舌片9、10の中央部7を圧接支承する様反転バネ6を可動鉄片4上に固着した4端子2回路の開閉接触部をもつ電磁継電器としたことにより、開閉接触部の両側接点に加わる接触圧を均等にし接触を安定にすることができる。

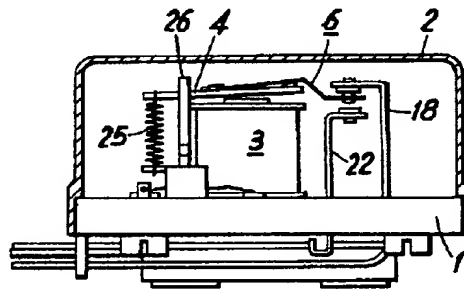
実用新案登録請求の範囲

ヒンジ型電磁継電器3の可動鉄片4の遊端に突起5を形成し、該突起5が接点11、12を固着した反転バネ6の舌片9、10の中央部7を圧接支承する様反転バネ6を可動鉄片4上に固着してなる4端子2回路の開閉接触部をもつ電磁継電器

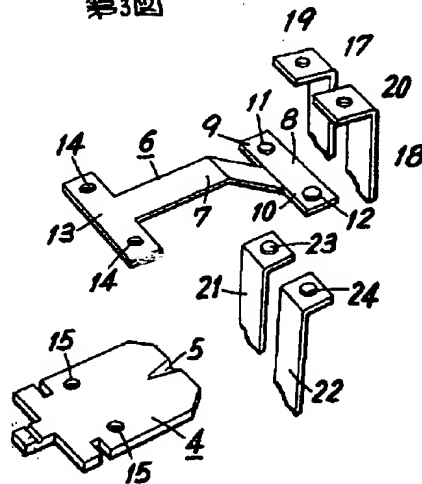
第1图



第2图



第3图



第4图

(イ)

(ロ)

